

「共生ケア」の実践発表研修会

社会福祉法人愛里巣福祉会

〒921-8176 石川県金沢市円光寺本町8番50号

助成事業の概要

今回の実践発表研修報告会は、「共生ケアに関する理解を深めると共に、ケアの本質を再考すること」を目的に開催しました。

実践発表研修報告会をとおして参加者が、障がい者や認知症高齢者の自己実現に向けた取り組みを知ることや、障がい者支援・高齢者介護について、ケアの本質を再考することにより、親や支援者（施設関係者）の資質の向上が図られ、質の高い支援が行われることをめざしました。

このことにより、業務中心の障がい者支援・高齢者介護が解消され、更なる「共生ケア」の取り組みが促進されると考えます。開催時期は、参加者が参加しやすい12月初旬の土曜日とし、テーマを「共生ケアの実践発表研修報告会」として、職員から実践事例発表と二人の外部講師から助言をいただくことにしました。

事業の成果

今回の実践事例発表研修報告会の参加者の内訳は、当事業所利用者22名、保護者11名、法人職員16名、外部講師2名、合計51名でした。研修報告会後のアンケートには、当事業所利用者（19名回答）から、「施設外就労で、こんな風に貢献できているのかと実感し、自分も自分にできることで貢献したい。」「普段とは違う職員の対応に緊張感がありました。とても丁寧でした。」との声が寄せられました。さらに保護者（4名回答）からは、「“ありがとう”の言葉が大事だと感じた。

他にも自分の存在が認められることが大切だと思った。」「個々に合ったサポートをお願いします。この取り組みの継続と他施設への提案、業界全体の発展に繋げてほしい。」などの声が寄せられました。

実践発表研修報告会をとおして、参加者には障がい者や認知症高齢者の自己実現に向けた取り組みを知っていただくことができました。また私たち支援者は共生ケアにより、支援者本来の役割を見直す機会を得ることもできました。さらには外部講師の総評より、共生ケアが障がい者、認知症高齢者の関係性のみではなく、支援者も含めた「三位一体」で成り立っているといった、新たな発見もありました。

今回見えてきた共生ケアの可能性や当事者の背景に理解を深め、今後も障がい者の将来や認知症高齢者の持っている力を引き出しながら、障がい者・認知症高齢者が社会に必要とされる機会をマッチングさせていけるよう取り組んでいきます。また実践を積み上げていながら愛里巣福祉会が中心となって「共生ケア」を地域に発信していけるよう取り組みを続けていきたいと思いません。

成果の広報、公表

今回の実践事例発表研修報告会については、事前に封書にて告知し、開催後には、毎月発行している広報誌「ハッピー通信」に掲載し、事例発表の概要や参加者の感想等を100名ほどの施設利

用者に紹介しました。

また、今回の実践事例発表研修報告会の内容を「平成 30 年度（公財）日本社会福祉弘済会助成事業共生ケアの実践発表報告書」として冊子にし、印刷後に全施設利用者に配布する予定になっています。

さらに当法人のホームページに、「共生ケア」の実践報告書を掲載し、啓蒙普及を図りたいと考えています。

■ 今後の展開

今回の参加者からは、「当事者の話も聞いてみたかったです。」「自分達の良い所も悪い所も話しながら、就労などの目的に向けて助言をもらえる場（施設）であってほしい。」などの声が寄せられていることから、今後、実践事例発表研修会を開催するにあたってはこれらの意見も参考にしながら、テーマや内容、講師を選定したいと考えています。

今後も職員主体、業務中心の障がい者支援・高齢者介護に陥っていないか、警鐘を鳴らし続ける意味でも継続します。また「ケアの本質」を見失わないために、また障がい者の将来、今後をも見越しながら、取り組んでいきます。